

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
ET45F007		幼児教育学特論(Special Seminar on Child Education)					教育学									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	大学院教育学 研究科	後期		氏名 永田 誠										
						E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559										
授業の概要	本授業では、幼児教育ならびに保育に関する理論と実践を学習することにより、高度な研究能力と教育的実践力を習得する。また、幼児教育・保育に関する現代的課題を解決するための理論的研究を行う。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	幼児教育ならびに保育の理論と実践に関する専門的知識について理解することができる					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	幼児教育・保育に関する現代的課題に対して適切に考察・報告することができる															
目標3	幼児教育・保育の調査研究を通して、理論と実践の往還による研究の深化と実践的指導力を育成する															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	現代における幼児教育・保育の動向と課題															
2	関心のあるトピックに関する先行研究を読む(1)															
3	関心のあるトピックに関する先行研究を読む(2)															
4	関心のあるトピックに関する先行研究を読む(3)															
5	関心のあるトピックに関する先行研究を読む(4)															
6	関心のあるトピックに関する先行研究を読む(5)															
7	研究テーマ・計画発表															
8	調査研究の実施(1)															
9	調査研究の実施(2)															
10	調査研究の実施(3)															
11	調査研究に関する中間報告															
12	調査研究の実施(4)															
13	調査研究の実施(5)															
14	調査研究の実施(6)															
15	幼児教育の意義と課題															
ラ ア イ ニ テ ィ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					・毎回、事例報告に対するディスカッションを行うため、報告者に限らず、受講者全員が必要な知識について事前に学習しておく。 ・多様なもの見方に気づくため、報告内容に対するディスカッションを踏まえた自己の振り返りを多用する。					工 夫 そ の 他 の					
時間外学修の内容と時間の目安	準備 課題図書ならびに関連文献等の精読(15h) 学修 課題図書ならびに学期末課題のレポート作成(15h) 事後 講義内容の振り返りによる知識の定着(15h) 学修															
教科書	受講者の関心に応じて、講義内にて選定・決定する。															
参考書	D・ショーン『専門家の知恵-反省的实践家は行為しながら考える-』ゆみる出版 その他の参考図書については、講義内で随時紹介する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業中のレポート報告	50%														
	学期末の課題レポート	30%														
	授業中の発言・議論内容等	20%														
注意事項	本講義は、資料作成の上、報告等を各自が行うので、無断の遅刻・欠席等は認められない。															
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって、講義内容・計画を変更することがある。 授業・課題への取り組み状況などは、成績評価に厳密に反映する。															
リンク	URL															